

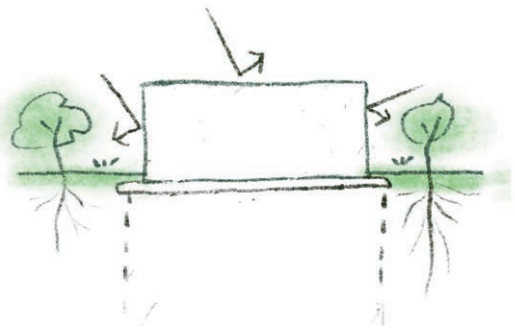
FLOATING APARTMENT

GLから浮かぶマンション

地球にとってのグランドレベルとは

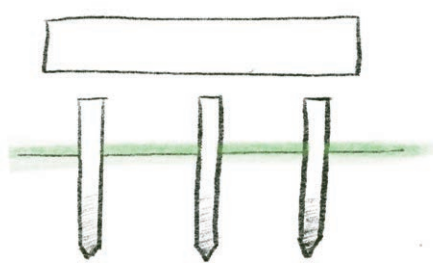
森林は日本の国土の約6~7割を占め、先進国の中では非常に高い水準が保たれています。しかし時代が進むにつれ、その割合は徐々に住宅用地等と入れ替わり徐々に減少を続けています。特に長い間人の手が入っていない天然林は多様な生態系を生み出し、川から海へと命のサイクルを回し続けるかけがえのない存在です。小規模宅地開発や林業の撤退による森林荒廃によってこれ以上豊かな森を減らさない為、建築が出来る事は何か？グランドレベルに焦点を当て考えました。

1 建築に伴う地表面確保の課題



新たな住処を自然豊かな場所に建てる場合、通常の建物は地表に蓋をしてしまい、土の呼吸を封じると共にその場所にこれまで存在した動物や植物の行き交いを制限してしまいます。

2 鋼管杭打ち込みによる基礎



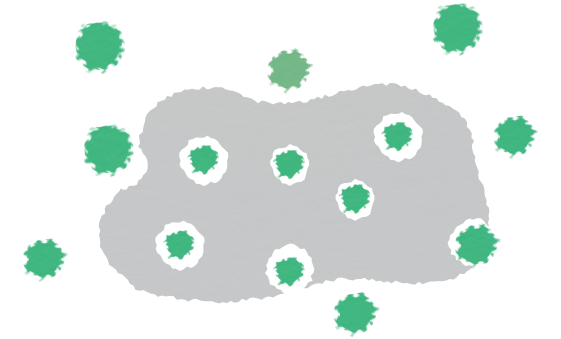
住環境を浮かせ、基礎コンクリートが不要で再除去が可能な鋼管打ち込みによる基礎とその鋼管をそのまま支持柱としたRC躯体をつくります。

3 植生・地形に合わせた平面計画



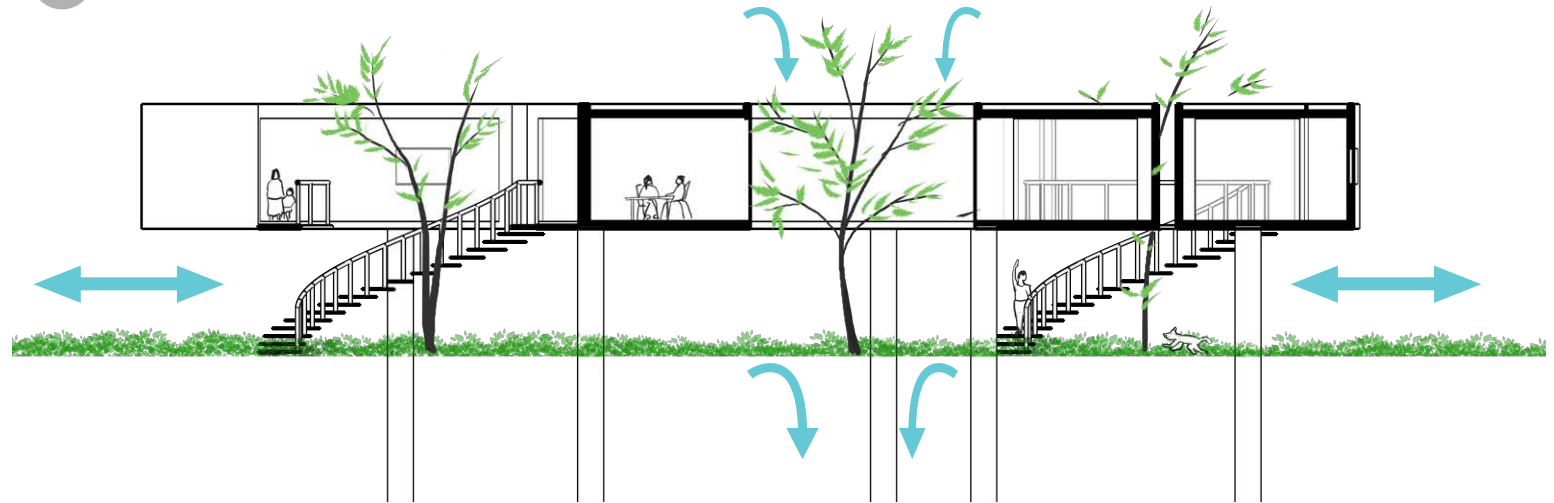
通常、建物の平面は人間の意思で決められます。しかしこの建築は元ある主要な木や植物を避ける事で意志を伴わない有機的な線で平面が出来上がります。建築の平面はその地域の植生に強く影響を受け、特徴づけられる事で唯一無二の形状となります。

4 伐採・移植を最小限に

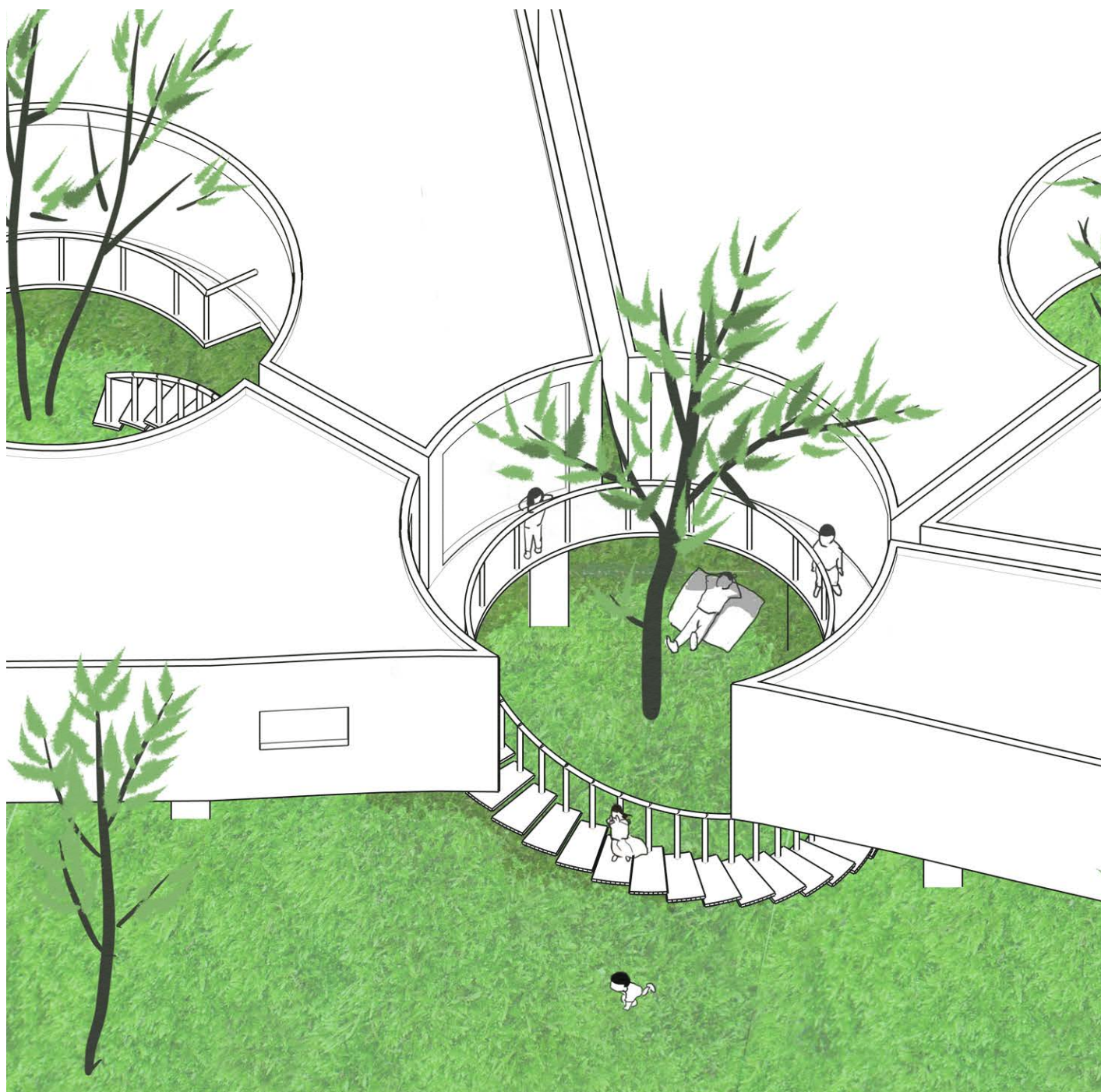


集合住宅などの広い建築面積では下部に広く影ができてしまいます。そこで主要な植物に光を当てる様に建物を複数箇所内で穿ちました。

5 その土地に浮かび、環境を取り入れる建築



GLが建築から解放され、多様な動物・植物の活動とそれに伴う有機物の堆積により正常な土壌環境を保ちます。また安定した植生の中空気や雨水が土中に行き渡る為、地下水の流れにも悪影響を与える事がありません。土中の水分が多すぎる場合は鋼管杭の打ち込み跡を浅井戸として利用する事で地下水のサイクルを更に改善する事ができます。



森と人が共同で生活するという事

各所に穿たれた穴はまるで小さな森が建築内に点在しているかの様になります。各部屋がその穴を玄関口とする生活では、その場所の木々を住人同士で共有・協力して見守っていく事となります。人間の為に都合のいい種類や場所に緑を置く事や環境を改変する事はせず、その土地の本来の姿を残しつつ適度に管理を行い共に生活する事で、森林荒廃の歯止めをかける。これまで森と人が共同で生活する事は環境破壊に繋がる恐れがありましたが、建築を工夫し森に住む事で双方にとっていい影響を与える事ができるかもしれません。

